

三木町で外国人住民のための 防災訓練を開催しました!!



香川県国際交流協会では、香川県からの委託を受け、地震などの大規模災害発生に備え、災害時に外国人住民を支援するボランティアの育成研修や、外国人住民への防災啓発のための訓練などを実施しています。今号では、2月4日(土)に三木町・三木町教育委員会と共催で実施した訓練について報告します。

外国人住民のための防災訓練

参加者:11カ国34名

三木町の災害を知ろう!



香川大学の学生さんが
たくさん参加してくれました★

三木町ではどんな災害が
起こるか、起こったとき
はどこに逃げればいいのか
などを確認しました。

避難所を体験してみよう!

災害体験や、テントの組立、応急担架づくり、非常食体験など
を行いました。



今回はハイゼックスという
特殊な袋を使って
ご飯を作ったよ★



災害時における多言語情報伝達訓練

参加者:26名(行政・団体職員、通訳等ボランティア、大学生等)

「多言語支援センターの活動事例から
災害時の外国人視点について考える」

講師:(特活)多文化共生マネージャー
全国協議会理事 柴垣 禎氏



多言語支援センター設置運営訓練

多言語支援センター立ち上げから、情報発信、避難所巡回等の
準備などを行いました。



避難所巡回訓練

外国人参加者は、シナリオに基づいて被災者役を演じました。支援ボランティアは、避難所巡回班とセンター待機班に分かれ、外国人被災者に必要な情報を提供したり、要望の聞き取りを行ったりしました。

情報提供の貼り紙

対面での聞き取り

電話相談



防災の日本語講座

気象警報などを題材として、災害時に
役立つ漢字や語彙を学びました。

毎年好評♥



避難所巡回訓練振り返り

グループごとに、巡回した避難所の情報を共有し、問題にどう
対応すればよかったかなどについて振り返りました。また、訓
練を通じて得た学びについて話し合いました。

市町と共催での事業の実施も3年目となりました。地域によって参加して下さる外国の方の国籍や在留資格などの特徴が違うことで新たな気づきを得られることを楽しみながら、研修を実施しています。

今回は香川大学がある三木町での開催だったため、外国人参加者のほとんどは英語も話せる留学生で、イスラム教徒の方や、赤ちゃん連れの方もあったことから、お祈りの部屋や授乳室などを準備したり、やさしい日本語以外に英語での説明を加えたりするなどの配慮をしました。

支援者向けの研修に参加された方からは、外国の方に情報を伝える難しさを知った、災害時の外国人対応に関する学びを得ることができたといった感想がありました。また、防災訓練に参加された外国の方からは、災害についての知識が得られ、心の準備が

できたという声がありました。

共通していたのは、年齢、国籍、社会的立場などが異なる人々が一緒に研修ができてよかった、楽しかった、という感想です。同じ地域に住む外国人と日本人が、ともに学び、交流する場を持ち、地域をつくるお隣さん同士として互いを知ること、この事業の意義だと考えています。

参加者の皆さん、スタッフとして支えてくださった関係者の皆さん、ありがとうございました。



平成28年度災害時における多言語情報伝達訓練